



Title	アイヌ語十勝方言の指示表現
Author(s)	高橋, 靖以; Takahashi, Yasushige
Citation	北方言語研究, 1, 157-164
Issue Date	2011-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45237
Type	departmental bulletin paper
File Information	nls-1-09.pdf



アイヌ語十勝方言の指示表現

高橋 靖以

(北海学園大学非常勤講師)

1. はじめに

アイヌ語にはダイクシス (deixis) や前方照応 (anaphora) に関わる様々な指示表現が存在する。アイヌ語の指示表現に関しては、知里 (1941) を始めとして様々な研究がおこなわれているが、語用論的な側面については未解決の問題もみられる。また、個々の方言の指示表現の体系についても不明な点が多い。これらの現状を踏まえ、本稿ではアイヌ語十勝方言¹の指示表現について言語調査に基づく記述的な分析をおこなう。さらに、現場指示や文脈指示に関わる表現について、語用論的な観点からの考察を加える。

2. 先行研究

知里 (1941: 112) はアイヌ語に連体詞という品詞を設定し、その定義を「名詞を修飾することを以て唯一の職能とする種類の語」としている。また、連体詞の下位カテゴリーとして指示連体詞という品詞を設定している (知里 1941: 114)。さらに、指示連体詞の特徴について、現実的指示と観念上の指示 (文脈指示) が形式上区別されることを指摘している (知里 1941: 115)。その後、浅井 (1969) や田村 (1988) などの研究においても同様の分類がなされている。

十勝方言の直接的な先行研究である切替 (1998) も、知里 (1941) と同様、指示表現を現場指示と文脈指示に分類し、個々の形式の記述をおこなっている。しかしながら、以下で述べるように、個々の形式の用法についてはなお詳細な研究が必要である。

3. 現場指示に用いられる指示詞

3.1 taan

この形式は話者の近くに存在するものを指示する形式である。切替 (1998: 340) は既に同様の指摘をおこなっている。

(1) *taan cep enkota eci-kar* *somo ki kus munin wa an.*
この魚 早く 2PL.SUBJ-作る 否定 する ので 腐る ている
「この魚はあなたたちが早く処理しなかったので腐っている。」

(2) *taan imi ponno ironne wa pase hum an.*
この 着物 少し 厚いて 重い の ある
「この着物は少し厚くて重い。」

¹ アイヌ語十勝方言は北海道東部方言に属し、北海道南西部方言とは方言的差異がみられる。本稿で取り上げるアイヌ語十勝方言の資料は、沢井トメノ氏 (1906-2006) から調査によってえられたものである。同氏の御教示に深く感謝申し上げます。

(3) *taan pe eci-kore-an na.*

このもの 2SG.OBJ-あたえる-1SG.SUBJ よ
「これをあなたにあげますよ。」

また、*taan* は自分と同位置にあるものを示す場合にも用いられる。北海道南西部方言においては、自分と同位置にあるものを示す場合、*taan* ではなく *tan* という形式が用いられるとされる (田村 1988: 87)。

(4) *taan hana e-en-kore a ru he?*

この花 2SG.SUBJ-1SG.OBJ-あたえる た の か
「この花はあなたがくれたのか (花を手を持った状況での発話)。」

さらに、*taan* は発話者が指示する対象の内部に位置する場合にも用いられる。日高東部の静内方言においては、このような場合、*tan* という形式が用いられるとされる (奥田 1999: 141)。

(5) *taan cise nekon an kus tap parka upar us ru an a?*

この家 どう ある のでこそ 火棚 煤 つく の ある か
「この家はどのようにして火棚に煤がついているのか。」

3.2 *taakay*

この形式は *taan* の複数形である。*taan* と同様、話者の近くに存在するものを指示する場合に用いられる。切替 (1998: 340) は既に同様の指摘をおこなっている。ただし、用例はあげられていない。

(6) *taakay uma cikir-i tunas.*

これらの馬 足-POSS 速い
「これらの馬は足が速い。」

(7) *taakay utar eikostek haweaspa wa nep kay somo a-nu.*

これらの人々 あまりに 声をあげる て 何も 否定 INDEF.TR.SUBJ-聞く
「この人たちがあまりに騒がしくて何も聞こえない。」

(8) *taakay pe e-e kocan cik pirka.*

これらのもの 2SG.SUBJ-食べる 嫌がる なら 良い
「これらのものをあなたが食べたくないなら (食べなくても) いいよ。」

3.3 *toon*

この形式は話者の遠くに存在するものを指示する形式である。切替 (1998: 340) は既に同様の指摘をおこなっている。

- (9) *toon pon nupuri or en paye wa taan pe o wa sinot yan.*
 あの 小さい 山 ところ へ 行く て この もの 乗る て 遊ぶ なさい
 「あの小山へ行ってこれ（橇）に乗って遊びなさい。」
- (10) *toon ekaci naa pon korkay pake pirka.*
 あの 子供 まだ 小さい けれども 頭 良い
 「あの子供はまだ幼いが頭が良い。」
- (11) *toon pe anak keraan nikaun'ipe estap an ne.*
 あの もの は おいしい 木の実こそ ある よ
 「あれはおいしい木の実だよ。」

3.4 tookay

この形式は *toon* の複数形である。*toon* と同様に話者の遠くに存在するものを指示する場合に用いられる。切替（1998: 340）は既に同様の指摘をおこなっている。ただし、用例はあげられていない。

- (12) *tookay ekattar usinotte wa kewtum-u pirka sir okay.*
 あれらの 子供達 皆で遊ぶ て 心-POSS 良い の ある
 「あの子供たちは皆で遊んで気分が晴れやかな様子だ。」
- (13) *tookay uma arikiki ru okay.*
 あれらの 馬 よく働く の ある
 「あの馬たちはよく働く。」
- (14) *tookay utar "itekke sunke yan" ari awki korkay okay anak sunke patek ki.*
 あれらの 人々 決して 嘘をつく なさい と 言う けれども 彼ら は 嘘をつく
 ばかり する
 「あの人たちは『決して嘘をつくな』と言うが、当の本人たちは嘘ばかりつく。」

3.5 tan

この形式は発話時点を指示する表現に用いられる。切替（1998）では独立の指示詞としては扱われていない。なお、知里（1941: 119）は *tan* について時間の表現に用いられることを既に指摘している。

- (15) *tan to anakne kunnano wano ruyanpe yupke.*
 この 日は 朝 から 雨 激しい
 「今日は朝から雨が激しい。」
- (16) *tan pa suy toon kur toyta kor an.*
 この 年 また あの 人 畑を耕す ている
 「今年またあの人は畑を耕している。」

4. 文脈指示に用いられる指示詞

4.1 nean

この形式は先行する談話内の要素を指示する表現に用いられる。一方、後述の *ikia* にみられるように、非言語的な先行要素を指示する用法はみられない。切替 (1998: 340) は *nean* について文脈指示に用いられることを述べているが、先行要素のタイプに関わる制約については触れていない。

- (17) *cikap ene kamuy ene nep ene ne yakkay pon kamuy ene ne yakkay*
鳥 でも 熊 でも 何でも である ても 小さい 熊 でも である ても
poronno okay kotan estan an. wa nean kotan eci-pa cikanak
たくさん いる 村 探す なさい そして その 村 2PL.SUBJ-発見する ならば
nean kotan ot ta okay yan.
その 村 ところ に いる なさい

「鳥でも熊でも何でも、小熊でもたくさんいる村を探しなさい。そして、そのような村を見つけたらなら、その村で暮らしなさい (口頭文芸からの例)。」

- (18) *too kim ta paye-an akus huptat tuk hi newa isam*
ずっと 山 に 行く -INDEF.INTR.SUBJ ところが 笹 生える ところ と ない
i an. nean huptat isam i a-akkari akus
ところ ある その 笹 ない ところ INDEF.TR.SUBJ-過ぎる ところが
huptat patek ros ki.
笹 ばかり 立つ

「ずっと山のほうへ行くと笹が生えているところと生えていないところがあった。その笹が生えていないところを通り過ぎると笹ばかりになっていた (口頭文芸からの例)。」

- (19) *ku-mici-hi ranmano toymonrayke ki, ki kan an wa ranmano*
1SG.SUBJ-父親-POSS いつも 畑仕事 する する ている て いつも
monrayke wa nean pe kus uipere easkay.
働く て その もの ので 皆で食事する できる

「父親がいつも畑仕事をして、仕事をしていて、いつも働いていて、そのおかげで皆が食べていくことができる。」

4.2 neokay

この形式は *nean* の複数形である。切替 (1998: 340) は *neokay* について *nean* の複数形であることを既に指摘している。ただし、用例はあげられていない。

- (20) *opitta a-ronno korkay ren patek*
すべて INDEF.TR.SUBJ-殺す けれども 三人 だけ
a-siknuka tek tura arki-an a ru ne.
INDEF.TR.SUBJ-生存させる て 共に 来る-INDEF.INTR.SUBJ た の である

tek neokay ren anak an-osippare a ru estap an ne.
 そしてそれらの三人は INDEF.TR.SUBJ-帰らせる た の こそ ある よ
 「(敵を)皆殺しにしたが、三人だけ殺さずに連れてきた。そしてその三人は帰らせた
 のだ (口頭文芸からの例)。」

- (21) kuperkep harkika usa an, wara harkika usa an kus neokay pe ari
 シナノキ 縄 など ある 藁 縄 など ある ので それらの もの で
 a-sina.

INDEF.TR.SUBJ-縛る

「シナノキの縄もある、藁の縄もあるのでそれらを用いて縛る。」

4.3 ikia

この形式は先行する談話内の要素や談話外の要素を指示する形式である。以下の例において、*ikia* が指示する要素は言語的なコンテキストに基づくものとみることができる。なお、田村 (1988: 88) は *ikia/ikirok* (*ikirok* については後述) について、「以前に、何かをした人や動物に言及する」形式としている。しかしながら、十勝方言においては、田村 (1988) の指摘するような有生性 (*animacy*) に関わる制約は必ずしも明確ではない。

- (22) *ikia* p, esaman, rekuc-ihni ni eukopi ka an pe ari
 そのもの カワウソ 首-POSS 木 枝分かれする ている もの で
 a-nunpa, rekuc-i a-nunpa. tek *ikia*
 INDEF.TR.SUBJ-締める 首-POSS INDEF.TR.SUBJ-締める そして その
 cep, ekupa a p, sura. ekupa a cep sura kus *ikia* cep
 魚 くわえる た もの 放す くわえる た 魚 放す ので その 魚
 an-eyapkir, pet osken an-eyapkir. tek *ikia*
 INDEF.TR.SUBJ-投げる 川 中へ INDEF.TR.SUBJ-投げる そして その
 esaman anak ari an-ama kus kira ru ne.

カワウソ は そのまま INDEF.TR.SUBJ-置く ので 逃げる の である

「そいつ、カワウソの首を枝分かれした木で押さえつけた、首を押さえつけた。そして、(カワウソは) その魚、くわえた魚を放した。くわえた魚を放したので、その魚を放り投げた、川の中へ放り投げた。そしてそのカワウソはそのままにしておいたので、逃げた (口頭文芸からの例)。」

- (23) ene an kamuy e kun pe pirkano a-kar ahinne
 このように ある 熊 食べる べき もの よく INDEF.TR.SUBJ-作る て
ikia p set or en a-koroman tek

そのもの 檻 ところへ INDEF.TR.SUBJ-持っていく て

「このように熊の食べる物をよくこしらえて、それを檻へ持って行って (口頭文芸からの例)」

一方、以下の例において、*ikia* が指示する要素は非言語的なコンテキスト (話し手と聞き

手に共有されている記憶や経験) に基づくものと解釈することが可能である。

(24) *ikia kur anak oman a ru he?*

あの人は行くたのか

「あの人(話し手と聞き手が共通して記憶している人物)は行ったのか。」

ikia kur anak monrayke kus oman a wa.

あの人は働くために行くたよ

「あの人は仕事をするために行ったよ。」

(25) *ikia cikap sone an wa suy haweas haw ku-nu ya?*

あの鳥 本当にいるて再び声を出す声 1SG.SUBJ-聞くか

「あの鳥(以前に鳴き声を聞いた鳥)は本当に存在するのか、そしてまた鳴き声を聞くことがあるのだろうか。」

以上の点から、*ikia* は非言語的な先行要素も指示しうる形式であると規定することができる。切替(1998:340)は*ikia* について文脈指示に用いられることを述べているが、*nean* との差異に関する分析は示されていない。

4.4 *ikirok*

この形式は*ikia* の複数形である。切替(1998:340)は*ikirok* について*ikia* の複数形であることを既に指摘している。

(26) *esin ikirok utar enon paye a ru tap an a?*

先程 あれらの人々 どこへ行くたのこそあるか

「先程、あの人たちはどこへ行ったのか。」

4.5 *toiki*

この形式は先行する談話内の要素を指示する形式である。ただし、談話内の要素のみではなく、眼前の対象も同時に問題とされている場合に用いられる。なお、*nean/neokay* や *ikia/ikirok* に比べ用例数は少ない。切替(1998)にはこの形式に関する記述はみられない。

(27) *nisatta an cik taan imi siokere cik okake en, toiki siokere hi*

明日 あるならこの着物 破れるなら後へその破れるところ

ku-utapke nankon na.

1SG.SUBJ-繕うつもりであるぞ

「明日になってこの(現場指示的)着物が破れたら、その後で、その(文脈指示的)破れたところを繕うつもりだ。」

5. 考察

前節まではアイヌ語十勝方言の指示表現に関する記述的な分析をおこなった。以下では、

十勝方言の指示表現に関し全般的な考察をおこなう。

5.1 現場指示表現に関する考察

現場指示の表現についてみると、アイヌ語十勝方言においては場面のダイクシスと時間のダイクシスの対立が基本的であるといえる。さらに、場面の指示においては、切替 (1998) も指摘するように、近称 (taan/taakay) と遠称 (toon/tookay) の二項対立のシステムとなっている。これを図示すると次のようになる。

	近称	遠称	発話時点の指示
taan/taakay	+	-	-
toon/tookay	-	+	-
tan	-	-	+

この中で注目されるのは、tan とその他の形式の差異である。tan は発話時点というダイクシス上の基準点 (deictic center) を指示する形式と規定することができる。一方、taan/taakay や toon/tookay は発話者 (基準点) からの「距離」を問題とする形式であるといえる。すなわち、十勝方言の現場指示表現は、ダイクシス上の基準点を示す形式と基準点からの距離を示す形式が複合している点で特徴的であるといえる。

5.2 文脈指示表現に関する考察

文脈指示の表現においては、先行要素のタイプや、現場指示が関与するか否かによって形式上の区別がみられる。これを図示すると次のようになる。

	談話内の先行要素	談話外の先行要素	現場指示
nean/neokay	+	-	-
ikia/ikirok	±	±	-
toiki	+	-	+

この中で注目されるのは、nean/neokay と ikia/ikirok の区別である。nean/neokay は、上記のように、談話内の先行要素のみを指示する形式である。Halliday and Hasan (1976: 33) はこのようなタイプの照応を言語内照応 (endophora) と呼び、談話内の要素と要素を結びつける機能 (結束性 cohesion) に注目している。

一方、ikia/ikirok は先行要素のタイプに関して制約を持たず、談話外の要素も指示しうる無標的な形式であるといえる。Halliday and Hasan (1976: 18) はこのような談話外の要素を指示する (従って結束性に関与しない) タイプの照応を言語外照応 (exophora) と呼び、言語内照応との機能的差異を指摘している。

以上の点から、nean/neokay は談話内の要素間の結びつきを積極的に示す形式と規定することができる。一方、ikia/ikirok は nean/neokay と異なり、先行要素の指示という機能のみを有するものと考えられる。すなわち、十勝方言の文脈指示表現においては、談話の結束性

に関わる度合いからみて、機能的に異なる形式が使用されているものとみることができる。

6. おわりに

本稿では、アイヌ語十勝方言の指示表現に関し、言語調査に基づく記述と分析をおこなった。その結果、十勝方言の現場指示表現について、ダイクシス上の基準点を示す形式と基準点からの距離を示す形式が複合していることを明らかにした。さらに、文脈指示表現について、談話の結束性という観点からの考察をおこなった。

略号

1: first person 2: second person INDEF: indefinite INTR: intransitive OBJ: objective
PL: plural POSS: possessive SG: singular SUBJ: subjective TR: transitive

参考文献

- 浅井亨 (1969) 「アイヌ語の文法—アイヌ語石狩方言文法の概略—」アイヌ文化保存対策協議会 (編) 『アイヌ民族誌』 下: 771-800. 東京: 第一法規.
- 知里真志保 (1941) 「アイヌ語の連体詞」『言語研究』 7/8 : 112-146.
- Halliday, M. A. K. and Ruqaiya Hasan (1976) *Cohesion in English*. London: Longman.
- 切替英雄 (1998) 「アイヌ語十勝方言による昔話「島を引いて泳ぐオタスの少年の物語」の辞典と文法 (2)」『北海学園大学学園論集』 98: 315-49.
- 奥田統己 (1999) 『アイヌ語静内方言文脈つき語彙集』 江別: 札幌学院大学.
- 田村すず子 (1988) 「アイヌ語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編) 『言語学大辞典』 1: 6-94. 東京: 三省堂.

Demonstrative Expressions in the Tokachi Dialect of Ainu

Yasushige TAKAHASHI
(Hokkai Gakuen University)

In this article, I describe the characteristics of the demonstrative expressions in the Tokachi dialect of Ainu. I mainly point out the following two points.

First, I point out the grammatical opposition of temporal deixis vs. place deixis (proximal/distal) in deictic constructions.

Second, I point out the opposition of endophoric reference vs. exophoric reference in anaphoric constructions.

(たかはし・やすしげ ytakahash@gmail.com)